

新大学構想〈提言〉に係る意見について

大学を取り巻く環境は大きく変化してきており、このような状況の中で、本学としては、公立大学の使命やガバナンスの強化を念頭に、積極的に改革に取り組んできたところです。このたび、大阪府市新大学構想会議から示された新大学構想〈提言〉については、本学にとってこれまでの改革の延長線上にあるもの、さらなる発展に繋がるものと受け止めています。本提言の実現は、戦後日本の高等教育史上、類を見ない規模の総合大学間の統合を内容とするものであり、具体化には多くの課題が想定されますが、大阪市立大学とも鋭意協議を進めてまいります。

なお、今後、新大学ビジョン（案）を策定されるに当たり、特に、次の諸点にご留意ください。

- 1 本学は〈多様〉〈融合〉〈国際〉の視点にたつ「高度研究型大学—世界に翔く地域の信頼拠点—」を基本理念としてきたところであり、今年度からは、この理念について一層の実現を図るべく、広汎な学問領域での学びを促進し、学生や社会のニーズに対応することを目指して、新たな学域体制をスタートさせた。学士課程教育における学域の理念と社会的意義は、新大学においても尊重されるべき重要な根幹であることから、その点について十分に考慮すること。
- 2 教育・研究組織の再構成に当たっては、重複分野の統合は必要であるものの、求められる人材像・育てるべき人材像や学生のキャリアパスの検討、さらに文部科学省の設置審査等の状況により、必ずしも当初企画どおりに進まないケースも想定されること。
- 3 本学は、教養教育・基礎教育を全学的に推進する体制を構築したことをはじめ、研究の学際化、教育研究のグローバル化、さらに産学官連携を中心とした地域貢献などの重要課題に対して、「垣根のない大学」の理念の下、全学体制で取り組んできた。このような全学的取組についても、新大学ビジョン（案）に位置付けること。特に、公立大学の使命として本学が重点事項の一つとして取り組んできた地域貢献について、十分に考慮すること。
- 4 新大学のキャンパス配置については、原則、同じ学部・学域は同一キャンパスに配置することとされており、早期にこのことを可能とする条件整備について、十分に考慮すること。

最後に、本学は、これまでの大学改革において、数次にわたる教育・研究組織の再編を経験してきましたが、教育組織の再編は受験生の進路決定に重大な影響を及ぼすことから、再編を進めながらの受験生確保の難しさを身をもって体験してきたところです。新大学ビジョン（案）の策定に際しては、受験生、高等学校ほか関係者に対する再編内容の周知と進路検討のための期間の確保について、十分にご理解ください。